

平成30年度胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

令和元年（2019年）7月

北海道胆振総合振興局

【概要】

平成30年度の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は1,007,087人泊（前年度比93.1%）で、平成29年度と比較して75,082人泊の減少となりました。9月～11月までの宿泊者数の減少が大きく、北海道胆振東部地震災害による宿泊のキャンセルや、予定されていた航空路線の延期などが影響したものと考えられます。

一方で、12月以降は順調な伸びを見せ、その背景として、春節がさっぽろ雪まつりの期間に重なったこと、また、LCCの座席供給量の拡大、道内での宿泊代などを割り引く「北海道ふっこう割」の販売時期と北海道の冬の旅行シーズンが重なったことなどが考えられます。

宿泊者数の減少は、平成23年に発生した東日本大震災以来7年ぶりとなりますが、平成28年度から3年連続で100万人を超えています。

【国・地域別の状況】（資料1）

訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、台湾が283,178人泊で最も多く、全体の28.1%を占めています。次いで中国（266,476人泊）、韓国（198,901人泊）、香港（79,372人泊）、タイ（33,584人泊）となっています。

上位5か国まですべてアジア圏の国・地域であり、【資料1】の「その他」に含まれるマレーシア（30,660人泊）、シンガポール（29,098人泊）、インドネシア（6,465人泊）、フィリピン（4,862人泊）、ベトナム（1,073人泊）、インド（155人泊）を含めると、アジア圏からの観光客が全体のおよそ92.7%を占めています。

上位5か国のうち、韓国（前年度比79.0%）は、落ち込みが最も大きくなりましたが、その要因として、韓国の盆休みの期間（H30.9.23～26）と北海道胆振東部地震災害が重なり、9月～11月までの宿泊のキャンセル率が高かったことや、9月に予定されていた定期便の就航が震災の影響で12月に延期されたことなどが考えられます。

一方で、中国（前年度比102.4%）は、震災の影響で一時的に減少しましたが、春節と雪まつりの期間が重なったことなどにより12月以降は急増しています。

タイ（前年度比132.5%）は、最大の旅行シーズンである4月にLCCの運航が再開したことや、北海道の観光シーズンに合わせた航空路線の増便などにより増加しています。

参考として、平成10年度からの訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（参考資料1）と平成28年度からの訪日外国人宿泊者数（延べ数）国・地域別の推移（参考資料2）を添付しています。

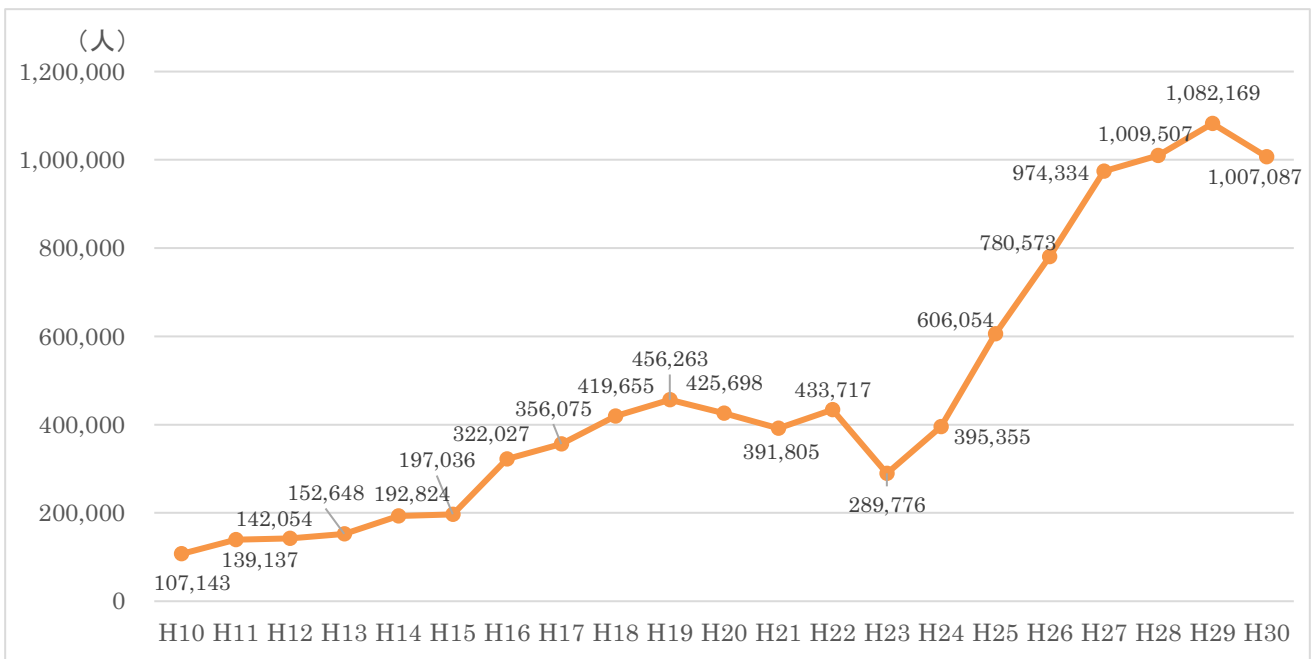
【資料1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳

（単位：人泊）

順位	国・地域	平成30年度宿泊者数（延べ数）		前年度比	前年度からの増減数
			構成比		
1	台湾	283,178	28.1%	87.1%	▲41,991
2	中国	266,476	26.5%	102.4%	6,233
3	韓国	198,901	19.8%	79.0%	▲52,849
4	香港	79,372	7.9%	98.7%	▲1,028
5	タイ	33,584	3.3%	132.5%	8,243
	その他	145,576	14.4%	104.5%	6,310
	合計	1,007,087	100%	93.1%	▲75,082

【参考資料1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H10年度～）

（単位：人泊）



【参考資料2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）国・地域別の推移

（単位：人泊）

